

# ＜選択＞の意義と学習意欲

—課題選択の試みから見えてくるもの—

福安勝則\*

## 0. はじめに

「選択」という言葉は、教育場面では選択科目、選択必須科目などとして耳にすることが多いが、本稿では、＜選択する・選ぶ＞ということが関係する課題選択方式の「課題」という小さなレベルではあるが、回答する問題を自分で選択するということと学習意欲（やる気）の関係について考察する。<sup>1</sup>

英語の辞書 *COBUILD* は、「選択する・選ぶ」という意味をもつ英語の *choose* の意味を次の(1)のように記述している。

- (1) If you **choose** someone or something from several people or things that are available, you **decide** which person or thing you want to have. (太文字は筆者による。)

(もしあなたが人または物を複数の選択肢の中から**選ぶ**とすると、あなたはどの人またはどの物が欲しいのかを**決める**ことになる。)

この定義に基づく、＜選択する・選ぶ＞という活動には、＜決める＞という精神活動が必然的に関わっていることが理解できる。したがって、複数のテーマから一つを選ぶ「課題選択」方式の課題での選択行為にも、必然的に、＜決める＞という精神活動が伴っていると考えることができる。

この＜決める＞という精神活動が内在する課題選択方式の課題に対する学習者の実際の反応（具体的な受け取り方・感じ方）を精査し、選択・自己決定と学習意欲、内発的動機付け、学習意欲の維持などとの関連について迫って行きたい。<sup>2</sup>

第1節は課題選択方式の課題の説明とアンケート方法、第2節から第4節までは、アンケート結果である。第2節は課題についての量と課題の方式について、第3節は課題選択方式を好む理由、第4節は教材に名言を用いることについて、である。第5節はまとめ、第6節はおわりとして今後の課題と展望を示す。

## 1. 課題選択方式による課題とアンケート実施方法

### 1.1. 課題選択方式による課題とは

ここでいう 課題選択方式による課題とは次の(2)のような内容である。

- (2)a. 学生は、複数の英文の中から自分で一つだけ選択。  
b. 選択した英文の内容に関する考え・感想・意見等を日本語及び英語で表現し、1週間後に

---

\* 鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構 教養教育センター 教授

提出。<sup>3</sup>

2017年度は、1学期に課題として計8回実施。(2018-2021年度は各学期ごとに14回提出。)

c. 英文には英語の名言を使用。

「受講生が選択できる」という要素が課題の中に、入っていることが重要な点である。

また、英文に名言を用いている理由に言及しておきたい。次の図1は、教材として見たいビデオについてA大学工学部1年生の100人にアンケートした結果(2009年)を示している。対象は工学系の学生であったが、英語名言集を好む学生が70%を占めている点が興味深い。<sup>4</sup>

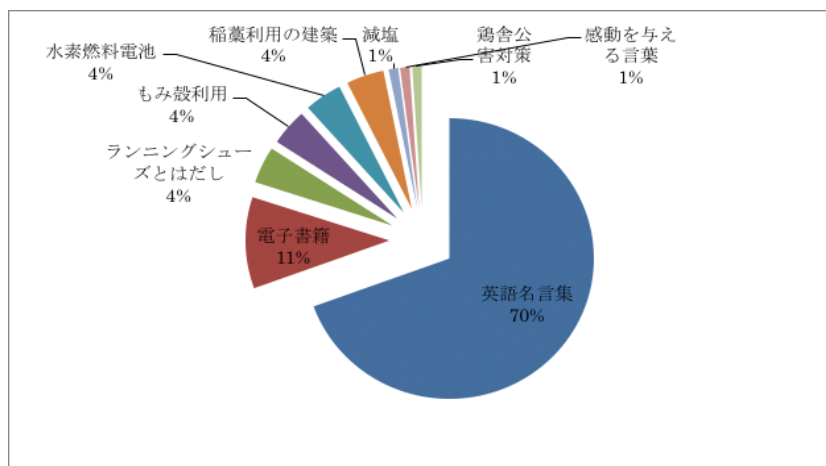


図1

好みの材料を使うことが学習意欲を高めると考えられるため英文の名言を材料とした。また、英文の名言は、(確認のため説明を加えれば、)語彙、構文等の復習にもなるとどうじに、受講者にとってテーマ(内容)がわかりやすく、何回読んでも意味があり、後にも残ると思われるからである。

## 1.2. アンケートの実施方法

アンケートの項目は次の(3a)、実施方法は(3b)のとおりである。

### (3)a. アンケート項目

1. 宿題の量について教えてください。 A. 少ない B. ちょうど良い C. 多い
2. 選択式の課題について伺います。 A. 選択式の方が良い B. 一つに決めた方が良い
3. 2.で選んだ理由を書いてください。
4. 名言の英文を読むことについてどう思いますか。自由に書いてください。

### b. 実施方法

1. 授業中に実施(15分程度)。
2. 対象：1、2年次の英語の授業受講学生7クラス296名
3. 実施時期：2017年7月、2018年1月

このような内容で実施したアンケートの結果を以下、第2節から第4節までで考察する。

## 2. 課題の量と課題の形式の好みについて

アンケートの項目1「宿題の量」については75%の学生がちょうど良いと答えている。<sup>5</sup>

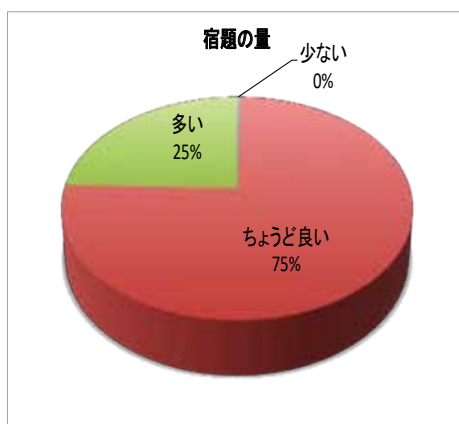


図2

また、宿題のテーマ選び方としては、図3のグラフが示すとおり、82%の学生が選択式の方が良いと答えている。

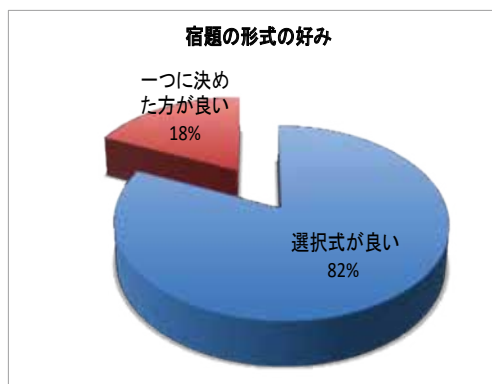


図3

学習者の多くが選択方式を好むのは何故か。以下の節では、具体的な学習者の声からこの点に迫っていきたい。

## 3. 「課題選択」の形式を好む理由

前節で見たように、宿題の形式について82%の受講生が選択式を好むと答えている。本節では、アンケートの質問項目3の自由記述文を定性的に分析し、受講生が「課題選択」形式の課題についてどう捉えているのかを探る。<sup>6</sup> 自由記述文(定性データ)には心理的・感覚的判断が伴い、学生たちが課題をどう捉えているかを具体的に探ることができると思われるからである。また、テキストマイニングでは、予想しない観点も見つかる場合もあるといわれている。<sup>7</sup>

### 3.1. 自由記述中の単語の出現回数

まず、表1は、課題選択方式を好む回答者の自由記述に現れた名詞について、出現回数順に並べたものである。6以上の出現回数に着目し、5以下は省略する。

表1 「課題選択」の形式を好む回答中の単語の出現回数(名詞)

品詞	単語	出現回数	品詞	単語	出現回数
名詞	自分	157	名詞	どちら	13
名詞	こと	112	名詞	よう	12
名詞	選択	87	名詞	英語	12
名詞	もの	60	名詞	作文	10
名詞	興味	49	名詞	たくさん	10
名詞	一つ	45	名詞	二つ	10
名詞	文章	32	名詞	勉強	9
名詞	英文	26	名詞	考え	8
名詞	ため	23	名詞	そう	8
名詞	好き	22	名詞	書くこと	7
名詞	ほう	20	名詞	授業	7
名詞	宿題	19	名詞	経験	7
名詞	課題	18	名詞	知識	7
名詞	多く	17	名詞	感想	7
名詞	名言	15	名詞	問題	7
名詞	内容	14	名詞	意味	7
名詞	選択肢	14	名詞	学習	6
名詞	やる気	14	名詞	意欲	6
名詞	とき	13	名詞	自由	6
			名詞	場合	6
			名詞	複数	6

また、次の図4は、課題選択方式を好む回答（自由記述）における出現単語を視覚的に表現したものである。赤色は動詞、青色は名詞、緑色は形容詞を示しているが、大まかな傾向を見てとることができる。



図4

また、次の表2及び図5から単語の共起関係について見るることができる。

表2

単語ペア	単語1	単語2	共起回数
できる 選択	できる	選択	51
できる 思う	できる	思う	40
やすい 書く	やすい	書く	36
思う 選択	思う	選択	30
できる 興味	できる	興味	26
やすい 選択	やすい	選択	24
できる 選ぶ	できる	選ぶ	24
できる やすい	できる	やすい	21
一つ 決める	一つ	決める	21
一つ 思う	一つ	思う	20
いい 思う	いい	思う	18
できる ほう	できる	ほう	18
できる 英文	できる	英文	18
書く 選択	書く	選択	17
できる 文章	できる	文章	17
できる 多く	できる	多く	15
ほう 思う	ほう	思う	15
できる 書く	できる	書く	15
やすい 選ぶ	やすい	選ぶ	14
やすい 思う	やすい	思う	13
できる 読む	できる	読む	13
思う 書く	思う	書く	13
しまう 一つ	しまう	一つ	13
書く 選ぶ	書く	選ぶ	12
興味 選択	興味	選択	12
思う 良い	思う	良い	12
一つ 選択	一つ	選択	12
思う 決める	思う	決める	12

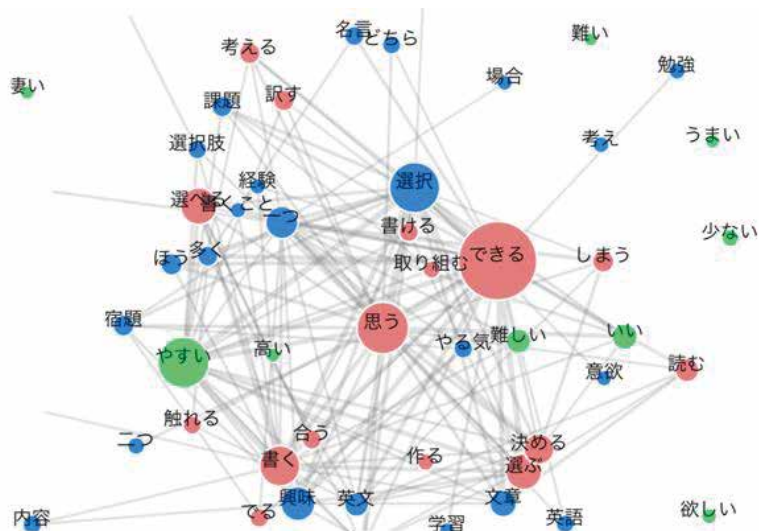


図5

### 3.2. ポイント精査

前節の表と図から大まかな傾向を探ることができるが、本節では、「課題選択方式を好むのは何故か？」という問いに対する、意味のある知見を引き出すために、「やる気」、「意欲」、「興味」、「選択・選べる」、「楽しみ・楽しむ・たのしい」のポイントを中心に自由記述文の文脈を精査する。

#### A やる気

(4) 「やる気」を含む受講生の声

- a. 「自分で決めた方がやる気が出るから。」
- b. 「自分で決める方がやる気が出て、宿題に意欲が出たので、一つに決めるよりも選択式の方が良いと思いました。」（以下、下線部著者。「やる気」に関する理由の他の例は福安(2018)、『補助資料』参照。以下同様。）

「自分で決める」ことが「やる気（学習意欲）」に結びつくと考えていることがわかる。

#### B 意欲

(5) 「意欲」を含む受講生の声

- a. 「自分で選択できる方が、自分の興味のある文章を読むことができるので、学習意欲もより向上し集中して英文を読むことができると考えたから。」
- b. 「自分にあった考えのものを選ぶことによって、その課題に取り組む意欲や考えられる量も増え勉強し易いと思う。」

これらの自由記述文から、「自分にあったものを選択できること」が「学習意欲の向上」につながると考えている受講生がいることがわかる。

#### C 興味

(6) 「興味」を含む受講生の声

- a. 「選択式の方が自分の興味がある方を解くことができるので、より楽しみながら訳をつくらることができる。特に詩人か作家の文を訳するのが楽しいので増やして欲しい。」
- b. 「自分の好きなもの、より興味のある方を選べるから。興味のある方を行うことによって、宿題をやろうと思えるし、やったときに、少しでも自分のものになった気がするから。」
- c. 「興味ある方を選ぶことができるのでモチベーションが上がる。2つあるから、その分多くの偉人の言葉を知ることができる。」
- d. 「少し読んで自分の好きな方ができるから。好きな方なら興味がでてきて、やる気ができるように思えるから。英語はすこしでも興味があるのからやっていった方が良く聞いたことがあるから。より多くの英文に触れることができるとおもうから。テーマがふたつあるとやらなかった方にも少しは興味がでてくると思えるから。」
- e. 「自分の興味のある内容を選ぶことができるから。もし時間があり、気が向いたら選んだ方でない方も読めてお得だから。」

これらの自由記述文から、「自分の興味がある方を解くことができる」(a, b, c)、「楽しみにつながる」(a)、「やる気・意欲・モチベーションにつながる」(b, c, d)、「自分の好きな方ができ、興味が出る」(d)、「お得感がある」(c, d, e)、「自分に身についた気になる」(b)、という選択方式を好む理由を知ることができる。

#### D 選べる

(7) 「選択・選べる」を含む受講生の声

- a. 「自分で選べるほうがいい。自分の解きたい方を解くことができるのがいいと思うから。一つに決めてしまうと学べる知識が減ってしまうと思うから。選択式だと両方解くことができ一つの方よりもさらに知識が身につくと思うから、選択式の方がいいと思った。」
- b. 「選択式の方が、自分が考えてみたいと思うことができるから。」
- c. 「二つある方が選べる楽しみが増えるし、とりあえず両方を見るので、勉強にもなると思うから。」

課題選択方式を好む理由として、「自分の解きたい方を解くことができる」(a)、「より多くの知識が身に付く」(a, c)、「取り組もうという気持ちが高まる」(b)という受講生の気持ちを上げることができる。さらに、(c)の自由記述文からは、「選ぶことが楽しみである」ことが窺える。

#### E 楽しみ

(8) 「楽しみ/楽しむ/たのしい」を含む受講生の声

- a. 「選ぶ楽しみができる。課題は気持ち多いと思うが、成長にはつながるだろう。」
- b. 「決める楽しみがあるためです。」
- c. 「自由度が多いほうがやっていたのしい。」
- d. 「人がどのようなことを言っているのか、それについてある程度くわしく知れるのは楽しいので。また、その言葉を使った文を作るのも楽しいため。」
- e. 「自分の興味のある方を選べる方が、訳をしていて楽しいと思えたり、なるほどっと思えるから。選べる方が宿題をやる時に楽しめる。」

これらの記述文から、「選ぶこと自体・決めること自体が楽しい」(a, b, c)、「考えを知り、その引用した文を作るのが楽しい」(d)と考える受講生もいることがわかる。

#### F やらされている感

(9) 「やらされている感・強制的な感じ・宿題感」

- a. 「一つに決めてしまうと、やらされているようになってしまいあまり課題をしようという意欲がなくなって、英語を自分で訳そうという気持ちが無くなってしまふような気がするので選択式の方が良いと思います。」
- b. 「一つに絞ると、全然興味がないものをやらなくてはいけなくて「やらされている感」を感じてしまうが、選択式にすることで、「どちらかといえば興味がある」というほうを選ぶことができるので「やらされている感」よりも「やっている感」を得ることができると思ったし、やろうと思えば両面できるので、人の2倍こっそりとできるから。」
- c. 「選択式のほうが強制的な感じがせず、嫌な気持ちなく課題ができるから。」

- d. 「一つに決めたら、その一つをやらなくちゃいけなくなるので宿題感がでて、自分的にはやる気がそがれると思うから。そして、二つあるほうが何か凄いなと思うから。」
- e. 「一つに決められると勉強をおしつけられているように感じるため。」

課題のテーマを一つに絞ると、「やらされている感・強制的な感じ・宿題感」という感覚を持ちうる受講生のいることは、筆者は正直予想していなかったが、あえて記しておきたい。<sup>8</sup>

### 3.3. 課題の方式についての好みと出現語彙

課題を一つに決める方を好む受講者（18%）の理由について精査する余裕はないが、選択を好む受講者の出現語彙との関係で気づいた点を少しだけ記しておきたい。

次の表3は、課題選択を好む受講者と課題を一つに決めることを好む受講者の自由記述文に現れた語彙の出現回数の比較の一部を示したものである。

表3

課題選択を好む理由	単語	課題を一つに決める方を好む理由
33	一つ	67
50	選択	50
8	授業	92
100	興味	0
22	どちら	78
30	ほう	70
88	文章	12

特筆すべきは「興味」の出現回数である。課題を一つに決めることを好む受講生の意見の中には「興味」の語彙の出現なく、課題形式の好みに関してその観点はないことが推測される。

さらに、片方の自由記述文にだけ出現する語彙を見てみると次の(10)、(11)のとおりである。

(10) 課題選択を好む受講生の自由記述文にだけ出現する単語例：

興味、選べる、増える、書ける、考え、知識、経験、意欲、解く、自由、学習、話題、広がる、進める、知る、共感、楽しみ、気に入る、可能性

(11) 課題を一つに決める方を好む受講生の自由記述文にだけ出現する単語例：

悩む、迷う、当てる、全員、フレーズ、一人、詳しい、タイトル、のこる、簡単、半分、取り上げる、テスト、相談、公平、成績、文法、意見交換、ペア、迷い

課題を一つに決める方を好む受講生の自由記述文には、課題選択を好む受講生の方とは異なり、「興味」、「意欲」、「共感」、「楽しみ」、「気に入る」などの動機付けと関わるような語が含まれていないのは注目に値する。明らかにこれらのリストの語彙に差があるが、詳しい脈略にそった分析は今後の課題としたい。

### 3.4. 受講生が課題選択の形式を好む理由のまとめ



3.2節の受講生が課題選択の形式を好む自由記述の分析から、「自分で決められたり、自分にあったものを選択できるとやる気・モチベーションが高まり、学習意欲の向上につながる」、「自分の興味がある方、解きたい方を選ぶことができ、楽しみにつながる」、「より興味ある方を選ぶことができ、身についた気になる」、「より多くの知識が身に付く、お徳感がある」と考えているからであると推察できる。また、「決めること自体、選ぶこと自体が楽しい」という気持ちも見逃すことはできない。

3.3節で見たように、課題のテーマを一つに絞ると、「やらされている感・強制的な感じ・宿題感」という感覚を持ちうる受講生のいることがわかった。また、課題を一つに決める方を好む受講生の自由記述文には、課題選択を好む受講生の方とは異なり、興味、意欲、共感、楽しみ、気に入るなどの動機付けと関わるような語が含まれておらず、課題形式の好みに関してその観点はないことがわかる。

#### 4. 名言を用いた課題について(アンケート項目4)

自由記述の中の単語の出現頻度は表4のとおりであった。

表4

形容詞	出現頻度
良い/いい/よい	82
難しい	21
多い	20
面白い/おもしろい	18
楽しい	14
にくい	5
やすい	5
新しい	3
うれしい	3
すごい	2
深い	2

名言を用いた課題についての回答をまとめると、「良い/いい/よい」を含め肯定的な意見が圧倒的に多い。次節では、英語の名言が、「どのような点で(何故)良いのか・面白いのか」について焦点を当てる。

##### 4.1. 「良い/いい/よい」・「おもしろい/面白い」

次の(12)は、「自分の為になる」というような内容の自由記述文の例である。

- (12)a. 「ためになることを言っているものが多いので良いと思う。自分の価値観が変わる。」  
 b. 「自分の人生の糧になって良いと思う。」  
 c. 「教養がみにつくので良いと思う。また、自分にはない考え方に触れられる点もよいと思う。」  
 d. 「英文の読解力を向上させるだけでなく、その文章が一体どんなことを言いたいのか考え

るため、思考力も身につくので、効率のよいほうほうだと思う。」

- f. 「教養が身につくので良いと思う。また、自分にはない考え方に触れられる点も良いと思う。」

また、「一石二鳥」的な有用さを感じている受講生もいる。

- (13)a. 「英語の英文を読んで訳すことは、ちょっと難しいけど、やればやるほど訳し方もわかってきたし、少しずつだけど、名言を覚えていける気がするので、英語学習とともに、人生の勉強にもなるので、一石二鳥であるから、とてもよいことだと思った。」
- b. 「英語の勉強にもなり、人生の勉強にもなるので一石二鳥で良いと思う。」
- c. 「一石二鳥だと思う。また、ひねってある文章は読んでいて楽しい。」

次の(14)は、「おもしろい/面白い」の例である。

- (14)a. 「英語の表現を学ぶことができるだけでなく、名言を知ることができ、教養が深まっておもしろい。」
- b. 「やっていて面白いと思うことが多い。為になっているなど常々思う。」
- c. 「とてもおもしろいし、自分が賢くなったように感じるから続けてほしい。」

#### 4.2. 名言利用についての自由記述のまとめ

多くの受講生が英語の名言を用いることを「良い・面白い」と思っているが、それは、自分の為になる、英語学習＋人生の糧（一石二鳥）となる、教養も深まる、思考力も身につく、（課題を）やるのが面白い、と感じているからであると推察できる。

#### 5. まとめ：課題選択方式を受講生の82%が好むのは何故か

課題の方式について受講者がどのような気持ち、感覚をもっているかをまとめておきたい。

- (15)a. 選択の余地のある課題をすることで、自分で選ぶ・決める楽しさを感じ、やる気を感じている。
- b. 興味・関心のあるものを自分で選択したいという気持ちがある。
- c. 選択することで課題特有の押し付け感やらされ感、宿題感が軽減されるという気持ちがある。
- d. 大学生はその年齢にふさわしい知的レベルの思考・アイデアを求めている。
- e. 英語の名言を用いた課題は、英語学習とともに、人生の勉強にもなる（一石二鳥）。

#### 6. おわりに――今後の課題と展望

教育に対する要望は多く、人により教育方針も様々であるが、<sup>9</sup> 今後の展望として、先を見越した中央教育審議会の答申『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン』『高等教育が目指すべき姿』から幾らかのフレーズを抜粋して見ておきたい。<sup>10</sup>

- (16)a. 自律的に責任ある行動をとれる
- b. 学修者自らが学んで 身に付けたこと
- c. 生涯学び続ける力

- d. 主体性を涵養
- e. 学修者を中心に据えた教育

今回の受講生の自由記述文から読み取れる気持ちや態度(15)は、(16)の目指すべき姿からみるとどうなっているのであろうか。(16a)の「自律的に責任ある行動をとれる」については、自分で選択したい、自分で決めたい、と思う学習者は多くおり(15a)、その方向へ進んでいくものと思われる。(16b)「学習者自らが学んで身につけたこと」に関しては、(15a, b)にあるように、自分で決めることで、やる気や学習意欲を高める気持ちをもっており、(達成感を感じているものもおり(6b)、)自ら学んでいくことにつながるであろう。(16c)の「生涯学び続ける力」について、今回対象となった受講生は、自分で決める学習に楽しさ、やる気を感じており(15a)、年齢にふさわしい知的レベルの材料が整えば(15d, e)、生涯学び続ける力を持っていると思われる。(16d)の「主体性を涵養」については、受講生に選択場面を経験させること、自己決定の機会を与えることで、その楽しさ、やる気を感じており(15a)、自分で選択したいという気持ちをもっており(15b)、主体性の涵養へ繋がっていくと思われる。今回は「選択の余地を与える」という小さなことであったが、学習者の自己決定がやる気や楽しさにつながっていくことを考慮すると、(16e)の「学修者を中心に据えた教育」についてもプラスの効果があったのではないかと考える(15a-c)。希望的に言えば、課題選択の試みに対する学生の気持ちは、(16)に示されたような目指すべき方向と概ね合致しているように思われる。

課題も多くあるのは言うまでもない。上述の辞書 *COUBUILD* の *choose* の定義(1)には、「自分で決める」こと以外に、選択肢についても言及がある。

- (17) If you **choose** someone or something from several people or things that are available, you **decide** which person or thing you want to have. (= (1)、下線部は筆者による)

決める(*decide*)の目的語は、「どの人において欲しいのか、或いはどのものを持ちたいのか」であり、選択肢が存在していることが前提である。

しかもその選択肢は、まず、**want** (欲する) 気持ちのもてる人・ものであることが前提となっている。課題選択方式の課題を与える側は、解きたい・取り組みたいと思わせる選択肢を準備しなければならないことになる。どれも選びたくて悩むプラスの葛藤を引き起こすような選択肢を用意することで、選択する・決定すること自体が楽しさにつながるのが望ましい。その楽しさが学習意欲の継続につながっていくものと思われる。自戒の意味を込めて述べるならば、選択肢の中身を疎かにしてはならないということである。

必須(強制)だけ或いは自由(放任)だけというのではなく、その中間の選択場面を提供することが現実的であり、実際そのような形態が取られる場合が多いが、選択の意味をしばしば忘れがちである。本稿が選択の自由(幅)を与えることの重要性のリマインダーとなれば幸いである。受講生は選択の自由が与えられれば責任を持って取り組むためか、読みごたえのあるバイリンガル・エッセイを執筆してくれている。

ここで考察した課題選択に含まれる「自分で決める力」、「自分で決める楽しさ」の重要性は、より大きなレベル、例えば、(自由)選択科目の選択場面、進学場面、就職場面などにも当てはめることができるであろう。また、自律的な選択とその楽しさが、自ら主体的に学び身につける学修者の原動力となり、生涯学び続ける力となり、主体性の涵養へとつながっていくことを願ってペンを

置くことにする。

## 注

- 1 本論を執筆するあたり、編集委員の方々には様々なご助言と励ましをいただいた。ここに感謝の意を表したい。本論は第66回中国・四国地区大学教育研究会（2018年6月3日）での口頭発表に基づいているが、選択活動に内在する自己決定の観点から考察を試みている。
- 2 学習の動機付けにおける自己決定 (Self-Determination) の効果はDeci博士とその同僚等により多く研究されているが、本稿ではこのSD理論との関連についてはここでは立ち回らない。内発的動機付け (Intrinsic Motivation)、自己決定理論 (Self-determination Theory) については、Deci (1975)、Deci and Flaste (1985); (1995)、Ryan and Deci (2000); (2002)等参照。
- 3 2019年度からバイリンガル・エッセイと呼ばれている。受講者は毎週課題として提出するが、この課題の受講者への指導を概略すると次のようになる。
  - (i) 提出する考え・感想・意見等についてのテーマは、英文の内容そのものについてでなくても関連していれば良い。
  - (ii) 自分の考えをもつには、まず英語の名言の文字通りの意味・言わんとする意味を十分に理解した上で、何回も読む。
  - (iii) そしてその内容を自分の経験、身近な物事、想像等に照らして考え、その考えを文章として書いてみる。使用する言語にはこだわらない（が、母語が細やかな思考、論理的思考を助けてくれるのは言うまでもない）。
  - (iv) 日本語を英語に訳すのではなく（或いはその逆でなく）、その出来上がった自分の考えを両言語で表すという感覚を持つことが重要である。
- 4 「工学部学生の選んだ課題の中で一番よかったビデオとその比率」、『英語教育についての意見交換会（工学部）』鳥取大学共通教育棟（2010年8月9日）において報告。
- 5 本稿では、「宿題」と「課題」を区別して用いていない。
- 6 分析者の主観が入る可能性はあるが、本稿では学習者の心理的・感覚的な判断を探ることを目指しているため定性的分析をとる。
- 7 テキストマイニング分析に際しては、松村正宏・三浦麻子（2014）、石田基広（2020）等を参考にしている。
- 8 その押し付け感の生じる可能性についてよく考えると、〈課題〉という活動に内在していることがわかる。まず、辞書の定義から〈課題〉の意味を考えてみよう。
  - (i) 仕事や勉強の問題や題目。『スーパー大辞林』
  - (ii) An **assignment is a task or piece of work that you are given to do**, especially as part of your job or studies.
  - (iii) **Homework is school work that teachers give to pupils to do at home in the evening or at the weekend.** (COBUILD) (太文字、下線は筆者による。)
 仕事や勉強の題目であり、学習者の側からみると、〈課題〉は内在的特徴として、「するように与えられるもの」という概念が頭に出来上がっていると言える。  
 （個人的にはあまり覚えていないが、）課題・宿題（をする）という活動は家庭で出くわすというより、学校社会で学んだものと推察される。教師から生徒にするように与えられるもの、つまり学生や生徒にとって

は受身的な活動であるということができる。このような概念化により、状況により、やらされている感、強制的な感じ、宿題感が生じるものと考えられる。

このような押し付け感が生じるのを回避する方法の一つは、課題をしたいと思わせるような課題内容を工夫することであると考ええる。

- 9 鳥取大学での様々な試みについては、福安勝則(2003;2015)、筏津成一他(2013)、福安勝則他(2014)等を参照。
- 10 中央教育審議会『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)』「高等教育が目指すべき姿」pp. 6-7.

### 参考文献

- 中央教育審議会(2018)『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)』.
- Deci, E. L. (1975). *Intrinsic Motivation*. New York: Plenum Press. (安藤延男・石田梅男訳(1980)『内発的動機づけ 実験社会心理学的なアプローチ』東京:誠信書房.)
- Deci, E. L., & Flaste, R. (1995). *Why we do what we do: Understanding self-motivation*. New York: Penguin. (桜井茂男監訳(1999)『人を伸ばす力 内発と自律のすすめ』東京:新曜社.)
- Deci, E. L., & Ryan, R. M. (1985). *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. New York: Plenum Press.
- 福安勝則(2003) 「英語力 今よりアップ、ステップ、ジャンプ--『やる気』の焚き付け考--」『大学教育研究年報』第8号, pp. 12-19. (鳥取大学・大学教育総合センター)
- 福安勝則(2015) 「本学英語教育の30年と未来像」『大学教育研究年報』第20号, pp 21-27. (鳥取大学大学教育支援機構教育センター)
- 福安勝則(2018) 『課題選択の効果について --小さな実践例より見えるもの--補助資料』第66回中国・四国大学教養教育研究会.
- 福安勝則(2020) 『Food for Thought: It's Your Choice 思考の糧 --選ぶのはあなた--』福井印刷.
- 福安勝則、筏津成一、和田綾子、小林昌博、サージャント・トレバー、リーン・シャーリー(2014) 『「英語上級」におけるグローバル人材の育成』平成24年度学長経費(教育・研究改善推進費)プロジェクト報告書.
- 筏津成一、福安勝則、和田綾子、小林昌博、サージャント・トレバー(2013) 『英語上級における英語教育の実質化』平成24年度学長経費(教育・研究改善推進費)プロジェクト報告書.
- 石田基広(2020) 『実践 Rによるテキストマイニング:センチメント分析・単語分散表現・機械学習・Pythonラッパー』森北出版.
- 松村正宏、三浦麻子(2014) 『人文・社会科学のためのテキストマイニング』誠信書房.
- 岡村俊明、福安勝則(2004) 『中国における英語教育の調査』平成15年度学長裁量経費 プロジェクト報告書.
- Ryan, R. M., & Connell, J. P. (1989). Perceived locus of causality and internalization: Examining reasons for acting in two domains. *Journal of Personality and Social Psychology*, 57, 749-761.
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2000). Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. *American Psychologist*, 55, 68-78.
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2002). Overview of self-determination theory: An organismic dialectical